

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	64	大学等名	大阪市立大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、(a) 全学の教育改革・IR や内部質保証の体制・機能強化 (b) 学修成果の直接&間接評価指標による可視化 (c) 学生の自律的能動的学修活動支援と学修成果の質向上スキーム構築 (d) アクティブ・ラーニング型教育に関わる教育改善 (e) 教職協働の FD・SD 体系化や学内外連携促進の観点から取組が実施されたことにより、大学全体の改革が加速されている。また、学修成果(直接評価)の可視化ツールである「OCU 指標」とその「総合活用スキーム」の構築は、本事業において実現を求める質保証の取組の核心に位置付けられるものである。それを中核に入口（入学）から出口（卒業）まで学修の質保証を伴った大学教育を実現する視点から、総合的な大学教育改革が達成されていることは評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、目標の達成状況に関して、必須指標である「学生の授業外学修時間」を除きおおむね目標値に到達しており、計画は達成されていると言える。「学生の授業外学修時間」の減少は、令和元年度に授業時間を1コマ90分から100分へ変更したことによるものとされており、目標の達成まで残りわずかである「事業計画に参画する教員の割合」については、順調な上昇傾向が見られることから、原因の分析等が行われ、改善に努めていると評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、自己点検評価を担う「学内教育評価委員会」と、学外有識者による「外部評価委員会」の体制が整えられ、どちらも設置以降毎年度会議が開催されている。また、本事業で開発された「OCU 指標」を中心とするアセスメント・ポリシーに基づいて、PDCA サイクルが推進されている。補助期間終了後についても、教育の内部質保証を推進する「内部質保証ワーキンググループ」及び「IR 室」、全学横断型教育の運営・推進支援を担う「教育開発支援室」が新たに設置されていたことに加え、「全学 FD 委員会」及び「全学 SD 委員会」が全学と各部局における FD・SD を企画する体制を構築していることから、今後も事業を継続する体制が整えられていると評価できる。「OCU 指標」の運用については、ランニングコストを低く抑える事業計画の下に推進されているとともに、補助期間中に「OCU 指標」を活用した学修相談等の取組を行ってきた「学修支援室」は、前述の「教育開発支援室」内に学修支援部門として位置付け、スタッフの業務兼務により人件費の削減が図られていることから、学内経費での効率的運営が予定されていることは高く評価できる。

事業成果の普及については、本事業を通して開発された「OCU 指標」は、カリキュラムの履修を通して各学位プログラムのディプロマ・ポリシーがいかに関与しているかを可視化するものである。その方法論は、広い汎用性を有しており、他大学等にも援用可能であることから、今後更に普及活動に努められることが期待される。